

第3 川越市農業振興計画の柱

本市の農業をめぐる状況や農業者の意識、消費者の意識を踏まえ、川越市農業振興計画の柱として、以下の3つの視点が重要と考えています。

1 儲かる農業の推進

全国的な傾向と同様、本市においても担い手農業者の減少や農業者の高齢化が進んでいますが、そうした背景として、農業所得が低迷している現状があると考えます。

中心的な担い手となる農業者への農地の集積や、市内商工業者との連携、農産物のブランド化、基盤整備などによる生産性の向上等により、農業所得の増加を図り、本市農業が魅力ある産業となっていくよう、施策を推進していく必要があります。

2 「小さな農業」へのアプローチ

本市の農業者の多くが経営耕地面積1ha未満、農業収入100万円未満の小規模な農業者となっています。

将来に渡って本市の農業を継続し、農地を残していくために、多数を占める小規模な農業者への支援が欠かせないと考えています。庭先販売や農産物直売所への出荷、市民農園や農家レストランの開設、所有農地の維持管理など、小規模な農業者の営農活動や農地の維持に向けた施策を推進していく必要があります。

3 農のある生活の充実

本市は東京圏に位置するにもかかわらず、県内有数の耕地面積を有する水田や畑などで、農産物の生産が行われています。

地域特性を生かした魅力あるまちづくりを進めて行くためには、本市の農業とふれあえる地域性を生かし、地場農産物の提供や市民農園の利用等、「農のあるまち川越」を充実させていく施策を進めていく必要があります。